

平成30年6月新見市議会定例会 6月8日（金）

日程第4（市長の行政報告について）

市長行政報告

本日、6月市議会定例会を招集いたしましたところ、皆様方にはご多用のところをご出席賜りまして、誠にありがとうございます。

さて、3月市議会定例会におきまして、施政方針として申し上げましたとおり、本年度は「第2次新見市総合振興計画」及び「新見市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づく地方創生の実現に向けた主要な事業に加え、施策の重点方針として位置づけた「新しい人の流れの創造」及び「協働のまちづくり」を推進し、市民、行政、大学の連携による「新見市版地域共生社会」の構築に向けて積極的に取り組むこととしております。これらを踏まえ、市政に係る主要な事業の進捗状況などについて報告させていただきます。

まず、4月から「地域と行政とのパイプ役」となる地域担当職員を、新見支局管内の8つの市民センター単位と4支局管内に先行配置しております。これまでに、職務内容等の共通認識を図るため、連絡会議や研修会などを実施してきたところであり、当面、担当地域内の「小地域ケア会議」に参加することとしております。地域の現状や課題などを把握するとともに、小地域ケア会議での議論を踏まえ、地域が主体となって行う地域課題の解決につながる試行的な取組を支援してまいります。

また、新見公立大学との連携体制の強化を図るため、企画政策課内に「大学連携推進室」を設置し、4月26日に地域共生社会の構築及び大学を活かしたまちづくりに向け「新見市と新見公立大学の連携に関する協定」の締結を行いました。協働によるまちづくり、健康増進、地域福祉の向上、教育、人材育成などの分野で連携し、人口が減少しても安心して暮らすことができる社会の実現を目指してまいります。

次に、4月10日から12日までの東京出張の状況でございますが、まず、総務省など関係省庁に出向き、各種支援に対するお礼と今後の財源確保について依頼を行ってまいりました。また、全国市長会においては、委員として参加している研究会で「ネクストステージに向けた都市自治体の税財政のあり方に関する研究会報告書」の最終取りまとめを行っております。

B&G財団や自治総合センターでは、シティプロモーション用に制作した動画「牛神家の一族」や新しい「市勢要覧」により、本市の状況や取組をPRするとともに、情報交換を行ってまいりました。地域活性化センターでは、本年度、東京で開催を予定している「A級グルメフェア」への協力依頼を行うとともに、会場として考えている「とっとり・おかやま新橋館」の視察も行い、首都圏での情報発信や販路拡大に向け効果のあるイベントとなるよう、準備を進めているところであります。

今後も、本市の地方創生の実現のために、国や各種機関に対して政策提案や支援要請など積極的に働きかけてまいりたいと存じます。

続きまして、第2次総合振興計画に掲げております基本目標ごとに、その主要な事業についてご報告させていただきます。

まず、「あたたかい福祉のまち」についてであります。保健・医療の充実につきましては、6か所のへき地診療所に勤務する医師について、本年度、新たに岡山大学寄付講座から2名を派遣いただいております。また、「看護学生奨学支援金制度」を活用した看護師につきましては、現在市内医療機関で活躍している12名に加え、今後1名が就職予定となっているなど、地域医療を担う人材の確保に努めております。

健康づくり支援策として導入した「健康ポイント制度」につきましては、昨年度408名が参加し202名が達成され、本年度は、さらに多くの方に健康的な生活習慣を身につけていただくため、参加要件を一人での参加もできるよう緩和しております。また、クアオルト健康ウォーキングにつきましては、定期的に行う「毎週ウォーキング」や団体からの予約に応じる「予約型ウォーキング」、参加者を募集して行う「イベント型ウォーキング」を実施しており、健康寿命の延伸が期待できるこれらの取組に、多くの方が参加いただけるよう引き続き工夫してまいりたいと考えております。

高齢者福祉の充実につきましては、介護現場の人材不足解消を目的とした「介護学生奨学支援金制度」を創設したところであり、その活用について広く周知を行っております。

子育て支援の充実につきましては、新見公立大学に設置された教育支援センターを拠点に、就学前から就学後における一体的な教育の推進や相談体制の整備を図ることとしております。

次に、「はばたく産業のまち」についてであります。今月から出荷が始まるリンドウにつきましては、栽培面積の拡大や担い手の省力化のため、昨年度、県・市の補助によりJA阿新花卉部会に全自動選別結束機を整備しており、処理能力の向上により昨年を大幅に上回る出荷が見込まれ、西日本を代表する産地となることを期待しているところであります。

企業誘致活動につきましては、マスターバッチの開発・製造を行う「株式会社アースクリエイト」及び物流搬送機器などの製造を行う「株式会社本宏製作所」の2社と、3月28日に西方の県営新見工業団地への立地にかかる協定を締結いたしました。これらにより新たな雇用の創出と市内経済の活性化促進につながるものと期待しているところであります。

また、「I J Uターン就職奨励金制度」を創設し、市外に居住している方が本市に転入し、市内の事業所に就職する場合に奨励金を交付することとしております。市内企業を支える人材を一人でも多く受け入れるため、本市独自の制度として広くPRしてまいりたいと考えております。

観光振興につきましては、本年3月に新見市観光事業審議会から、観光事業の将来的な展望や方向性を定めた「新見市観光アクションプラン」の答申をいただきました。今後は、このアクションプランに基づき、観光施策の展開を図ってまいります。

また、「新見千屋温泉いぶきの里」宿泊棟へのエレベーター整備工事に5月末から着手し、本年秋を完成予定としております。これにより高齢者の方などに、より利用しやすい施設となり、その魅力を広く発信してまいりたいと考えております。

次に、「ゆたかな文化のまち」についてであります。小・中学校におけるICT活用教育につきましては、昨年度から人型ロボット「ペッパー」を活用したプログラミング教育を実施しており、本年2月に行われたプログラミングコンテストの全国大会で、新砥小学校が最高位の金賞を受賞するなど、その成果が広く認められたところであります。

また、4月1日に開館いたしました新見公民館・生涯学習センターにつきましては、5月末までに43団体で、延べ939人と多くの方が、公民館活動や生涯学習活動、そして地域の各種集会等でこれまで以上に幅広く利用していただいております。

まなびの森新見図書館につきましては、3月末までの1年間で来館者が20万人を超え、多くの方にご利用いただいております。6月3日には、「現代に生きるグリム童話」と題し、本市出身の宇都宮大学 橋本孝 名誉教授による市民学習講座・新見市立中央図書館1周年特別講演を開催いたしました。今後も、様々な催しを企画するなど、利用促進に努めてまいりたいと考えております。

次に、「かいてきな環境のまち」についてであります。下水道の充実を図るため進めております、本郷浄化センターと新見浄化センターの統合事業につきましては、今月末でほぼ完了し、9月末までに切り替えを行う予定であります。引き続き、コストの縮減や効率的な運営を図り、快適な生活環境の実現に向けた取組を進めてまいります。

なお、前回定例会において予算決算常任委員会の意見書にもありました地域の経済対策に関しましては、今回の補正予算に道路・河川維持修繕事業費を計上しております。

以上、市政運営の状況につきまして主なものをご報告いたしました。引き続き市政の推進にご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。